

第1章 景觀特性

第1章 景観特性

1. 白河市の特性

■ 位置

白河市は、福島県中通り地方の南部に位置しています。古くから白河関がみちのくの玄関口としての役割を果たしており、松尾芭蕉をはじめたくさんの人々がこの地を訪れ、様々な人やものが交流する要衝の地として発展してきました。近年では、より高速で移動できる東北自動車道や東北新幹線が整備されています。

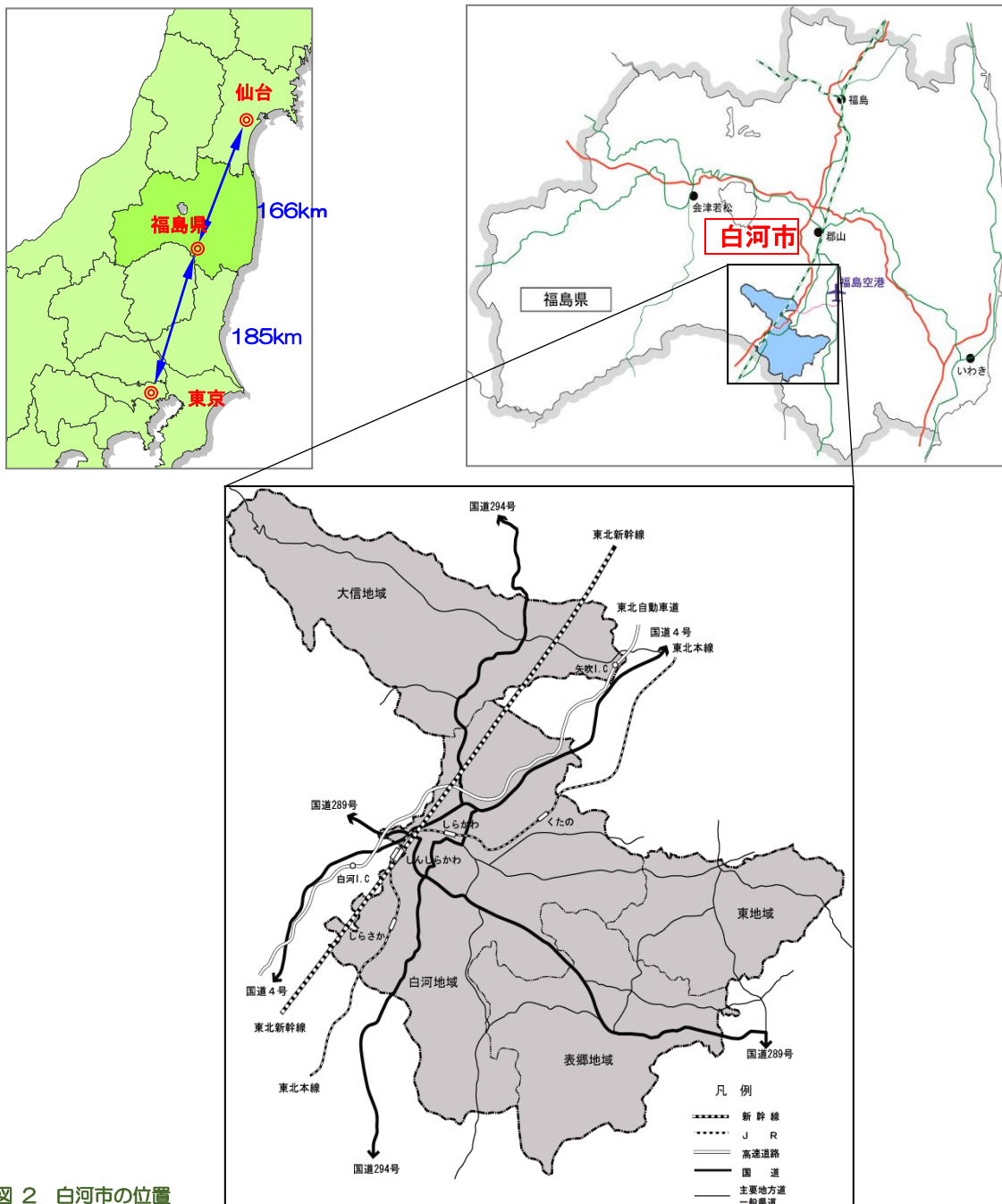


図 2 白河市の位置

■ 地勢・気候

面積は 305.32 km²で、西に那須山系、南には八溝山系が連なり、その間を阿武隈川が流れる豊かな緑と水に囲まれた標高 300～1,000m にある高原地帯となっています。田園風景が広がる標高約 300～400m の平地と 400～600m の丘陵・山岳地帯で大部分が形成されており、最高標高は大信地域西北端にある権太倉山の 976.3m となっています。

一級河川には市内中心部から東地域北部に流れる阿武隈川、表郷地域を東西に流れる社川、大信地域を東西に流れる隈戸川などがあります。阿武隈川の河川流域を中心に市街地が形成され、市街地や既存集落地からは、那須山系、八溝山系がスカイラインを形づくっています。既存集落地においては河川と水田及び里山により、ふるさとの景観や自然環境が保全されています。

気候は、年平均気温約 12℃で、夏は涼しく、冬は季節風の影響で寒さは厳しいものの、積雪量は少なくなっています。



谷津田川せせらぎ通り周辺を包む雪景色

第1章 景観特性

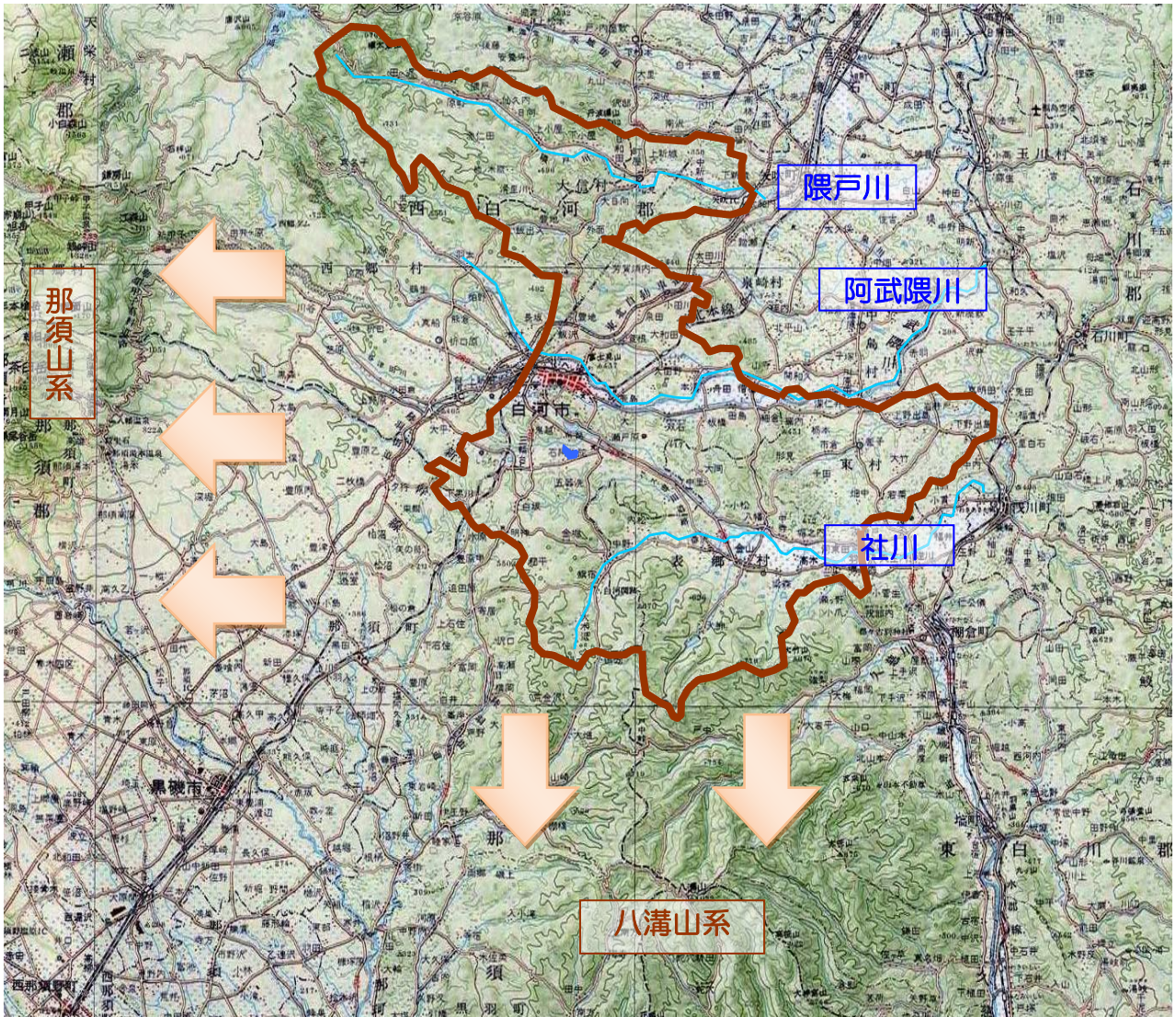


図3 白河市の地勢

2. 白河市の景観特性

現在の白河市の景観は、地形や植生などの自然環境をベースとしてつくられた都市基盤の上に、古代から重ねられてきた歴史と、人々の活動や、くらしの営みにより形成されてきました。これらの景観を形成する要素の基盤となる地形等の自然的要素、また、それらを基に培われてきた歴史や市街地・集落形成、土地利用等の社会的要素により整理し、白河市の景観特性を把握します。

白河市の景観を構成する代表的な要素を下表のとおり分類します。

景観特性の概要

NO	景観特性	概要	景観構造の骨格
1	歴史景観	寺社等の歴史的建造物、歴史的街並み、史跡等、歴史的要素により構成される景観、または文学・詩歌・芸能・祭り等にちなむ景観	面
2	都市景観	主として建築物群によって構成される住宅地、商業地、工業地等における景観	
3	田園景観	阿武隈川、社川、隈戸川等の源流域に広がる優良農地、集落等における景観	
4	自然景観	山地、丘陵地、農地、河川等自然的オープンスペースによって構成される景観	
5	眺望景観	那須連峰をはじめとする山々やランドマークとなる建築物等を眺望して得られる景観、または高台等から見渡して得られる景観	眺望
6	景観軸	道路、河川等地域の骨組みとなる線的な景観	線
7	景観拠点	歴史的建造物、樹木等の点的な景観	点

第1章 景観特性



図 4 主要な景観資源

2-1 歴史景観

白河市には、長い歴史の中で培われてきた歴史的・文化的景観資源があり、これらを代々守り続けてきました。小峰城跡を中心とした旧奥州街道沿いの寺社仏閣・歴史的建造物・蔵等の古い街並み、阿武隈川、谷津田川沿いの風景など数多くの美しい景観があります。

また、歌枕として名高い「白河関跡」をはじめ、白河藩主松平定信が築造し、庶民に開放した「南湖公園」、奥州街道や会津街道といった歴史的街道沿いの集落など、貴重な歴史遺産が現代に引き継がれています。



小峰城跡と那須連峰

2-2 都市景観

白河市はみちのくの玄関口として、東北自動車道、東北新幹線等の高速交通体系に加え、首都圏に隣接するという地理的優位性を有していることから都市機能が集積しており、利便性の高い良好な都市景観が形成されています。特に、新白河駅周辺は、昭和57年に東北新幹線が開業し新白河駅が設置されて以降、分譲マンションやホテルなど高さ30m前後の高層ビルが立ち並び、様々な商業施設が立地しています。

市街地は、戸建て住宅を主体に構成され、落ち着きと緑の潤いのある良好な住宅地が形成されています。また、市街地を取り囲むように、市民の就業の場となり、まちの活力を生み出す工業団地が分布しており、緑豊かな工場地の景観が形成されています。



新白河駅周辺

2-3 田園景観

市内には阿武隈川、社川、隈戸川をはじめとする多くの河川が存在し、これら流域には優良農地が広がって、美しく良好な景観が形成されています。

ここでは、田植えから稲刈りまでといった農業が作り出す四季折々の景観を楽しむことができるとともに、集落や住宅が点在して、景観にアクセントを添えています。

古くから人々に引き継がれてきた、豊かで美しい心安らぐ農村特有の田園景観は、那須連峰の裾野に広がる白河ならではの特徴となっています。



阿武隈川流域に広がる田園景観

2-4 自然景観

穏やかな丘陵地と緑豊かな森林は、白河市の背景となる貴重な景観資源となっています。

白河市の最高峰である権太倉山（標高 976.3m）は美しい稜線を持ち、麓には聖ヶ岩が位置するなど、四季を通じて豊かな自然に恵まれており、ふるさとの山として地域に親しまれ、隈戸川流域からの重要な眺望景観となっています。

独立丘陵の関山（標高 619.0m）や八溝山系に連なる天狗山をはじめとする山並みは、社川流域の背景としても重要な景観資源となっており、犬神ダムからは良好な眺望景観が得られます。



隈戸川流域の権太倉山眺望

2-5 眺望景観

白河市は四方を山々に囲まれています。特に那須連峰の勇壮な山並みは、白河市を代表する眺望景観であり、ふるさと白河の心象風景として市内の学校校歌にも多く歌われています。

白河市の宝である南湖公園から那須連峰や関山を望む眺望景観は、市民はもとより多くの来訪者に親しまれています。

また、中心市街地から望む小峰城跡三重櫓は、白河らしさを象徴する貴重な眺望景観となっています。



南湖公園千世の堤から望む那須連峰

2-6 景観軸

道路や河川は、拠点的な景観要素や地域を結ぶとともに、豊かな自然・歴史に育まれた白河の風土景観の骨格を形成しています。

高速道路や国道、県道等の主要な幹線道路、街道等により構成される景観軸である道路からは、小峰城跡三重櫓や周田の山並みなどの眺望景観が得られます。また、奥州街道、白河街道（会津街道）、石川街道、棚倉街道等の歴史的街道の沿道には、宿場のおもかげを残す建築物などがあり、個性的な景観を創出しています。

阿武隈川・隈戸川・社川・谷津田川等の河川は、豊かな自然環境を感じることできる貴重な景観資源となっています。



谷津田川から望む那須連峰

2-7 景観拠点

白河市は、古代の「白河関跡」、白河藩主7家21代の居城「小峰城跡」、松平定信が士民共楽の理念に基づき造営した「南湖公園」など、豊富な歴史的・文化的資源を有し、白河らしい景観を特徴づける拠点が数多くあります。また、こうした優れた景観を有する場所では、多くの人が集まり伝統行事やイベントが催されており、白河という都市空間を印象づける重要な景観資源となっています。



図 5 景観拠点

第1章 景観特性



① 聖ヶ岩



② 満徳寺のしだれ桜



③ 白河ハリストス正教会



④ 関山



⑤ 境の明神



⑥ 建鉾山からの眺め



⑦ 白河提灯まつり



⑧ 白河だるま市